

金剛石

八代市立第六中学校

学校だより

令和7年5月19日②

文責：校長

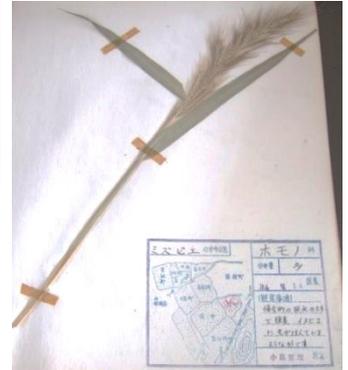


校訓：「金剛石の光を発揮し、まわりを照らせ」

学校教育目標：「自分を磨き、仲間と繋がり、未来を考える生徒の育成 ～共に成長していく学校～」

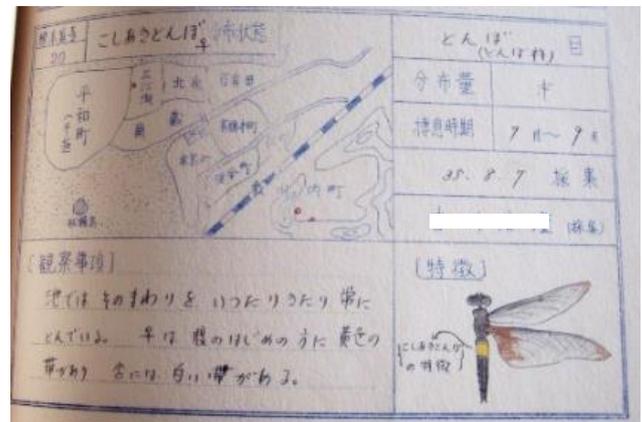
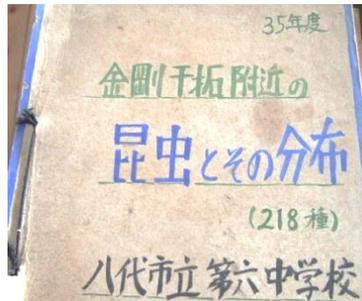
金剛地区の研究 ～六中の先輩方の取組に感銘～

先日、校舎内を見回っていると理科準備室で昭和30～40年代の金剛地区に関する研究のまとめを見つけました。理科担当の甲斐先生に尋ねると、「ここにたくさん保管してあります。」と教えていただきました。

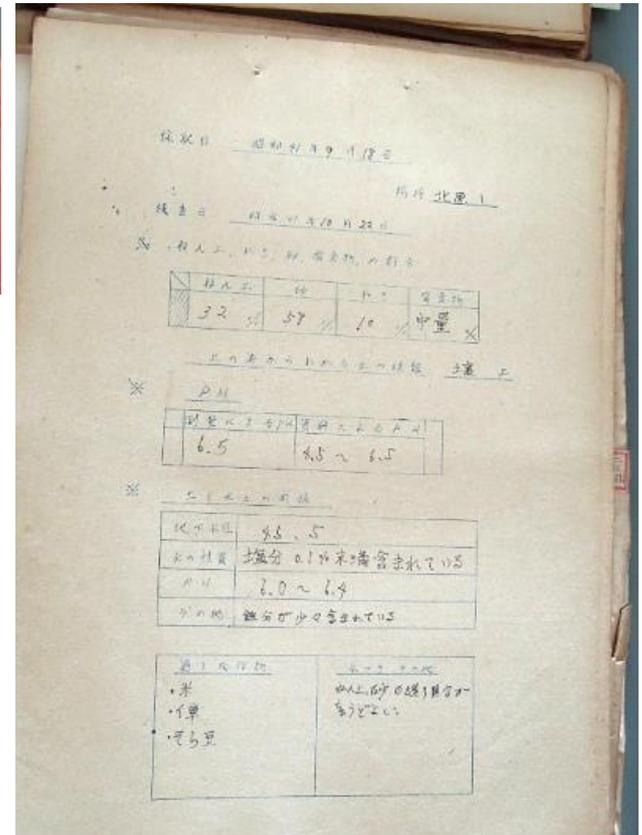
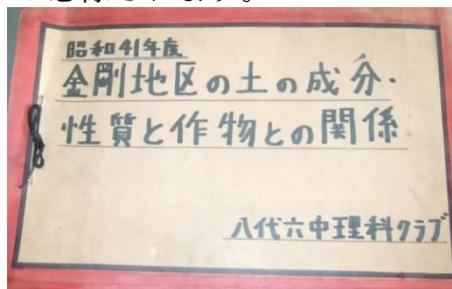


その中の一つは「八代市金剛の植物」、金剛地区の植物を採集して台紙に貼り、採集した場所・期日や観察事項が記録されています。「ミズビエ」、「昭和34年7月14日に催合町の用水の土手で採集」と記録しており、地図に印が付けられ、観察した感想なども記述されています。現物も当時のままきれいに残っていました。

二つ目は「金剛干拓附近の昆虫とその分布」、採集番号20「こしあきとんぼ」、「昭和35年8月7日採集」、地図では三江湖と敷川内に赤い印がつけられています。丁寧なイラストが描かれ、観察事項の欄には「池のまわりをいったりきたり、腹部には黄色の帯あり」と記述されています。おそらく夏休みに観察に行き、現地や家に帰って記録を残したであろうと想像されます。



三つ目は「金剛地区の土の成分・性質と作物との関係」、広い金剛干拓の各地域の土壌のPHや塩分濃度等を計測し、土の特徴などが記録され、最後は適した作物が書かれています。分厚く綴じられた冊子のあるページには「昭和41年9月18日」「北原1」「PH6.5」「少し鉄分が含まれている」「栽培に適する作物は米・草・そら豆」と記述されています。崇高な主題設定に膨大な記録、当時の中学生の熱意と粘り強く最後までやり遂げる忍耐力を感じることが出来ます。



おそらく今は70歳から80歳を超える方々になるかと思いますが、六中の大先輩のこれらの取組に感銘を受けました。まさに、校訓である「金剛石の光を発揮し、まわりを照らせ」を実践されている姿だと感じました。このような先輩方の頑張りが現在の金剛地区の発展につながり、今も支えていただいているんだと思います。先輩方に感謝です。第六中学校の歴史と伝統を実感した一日となりました。